

研究報告

患者調査に基づく疾病分類別入院者推計数からみた福井県嶺南地域の疾病構造

鈴木 隆史^{1) 2)}, 野沢 和也¹⁾, 喜多 義邦^{1) 2)}, 交野 好子^{1) 2)}

1) 敦賀市立看護大学

2) 敦賀市立看護大学地域在宅ケア研究センター

要 約

【目的】平成23年患者調査の結果に基づいて、福井県内の疾病別入院者数から主として福井県嶺南地域の疾病構造について検討した。**【方法】**統計法33条に基づく目的外申請を利用して、福井県内の疾病別入院患者数の性別・年齢別、医療圏別の実数と推計患者数を得た。**【結果】**推計数の割合からみると、嶺南医療圏では「感染症および寄生虫症」、「消化器系の疾患」、「腎尿路生殖系疾患」が4医療圏中第1位となり、他の疾病に比べて多く、年齢・性別で特徴がみられた。20歳未満における「呼吸器系の疾患」の割合も福井県内の他医療圏に比べて高かった。また、20歳以上65歳未満では、「精神及び行動の障害」が男女ともに著しく多く、この傾向は嶺南医療圏にとどまらず他の医療圏においても同様の傾向を示した。**【結論】**嶺南医療圏において性別・年代別に注目すべき疾病が見られた。地域における疾病構造を明らかにし、実情に応じた医療需要を推定するためには患者調査等の死亡統計以外の医療統計も併せて分析する必要がある。今後は通院患者も含めてより詳細な分析を行う必要があると考えられた。

キーワード 患者調査, 入院患者, 疾病構造, 福井県嶺南地域.

はじめに

福井県は、福井県第6次医療計画において、福井県内の2次医療圏を、福井・坂井、奥越、丹南、嶺南の4つを設定している。福井県嶺南地域(敦賀市、小浜市、美浜町、高浜町、おおい町、若狭町)は、人口では143,568人と約18%であるが、医療圏面積では1,099km²と26%で4医療圏の中では奥越医療圏に次ぐ広さを持っている。その中であっても患者流出率は13.5%と福井・坂井医療圏に次ぐ低さを維持している¹⁾。一見すると、嶺南医療圏では医療圏内で医療が完結しているように見える。しかし、嶺南医療圏では、地域医療支援病院・特定機能病院ともに皆無であり、高度医療を必要とする患者は他医療圏に流出する可能性がうかがえる。また、都道府県単位で疾病分類別の患者数を得ることができても、2次医療圏単位での統計は公表されておらず、医療圏内ではどの疾病でどの程度入院患者が存在するかは不明である。

そこで、患者調査目的外申請を活用し、患者調査²⁾に基づいて福井県嶺南地域における「入院を要する」

患者数について、平成23年(2011)の性別・年齢別、医療圏別の様相を観察した。

方 法

1. 基礎資料

基礎資料として平成23年に実施された患者調査個票のうち病院入院(奇数)票と福井県医療計画を用いた。患者調査データの使用に当たっては、統計法第33条に基づき、平成23年患者調査の提供の申出(目的外使用申請)を行った。

2. 解析方法

疾病分類で分類される全ての疾病について、2011年の病院入院(奇数)票から福井県全体と福井県内の各医療圏における入院患者数の実数を得て、入院患者推計数を算出した。同時に、性別・年齢別の総入院患者推計数も算出した。算出は福井県の医療圏単位で行った。

福井県嶺南医療圏は本研究の福井県嶺南地域と同一の市町である。ただし、医療圏単位と保健所管轄

が異なる福井・坂井医療圏については、福井保健所と坂井保健所の合計値を示している。

1) 患者の疾病分類集計について

個票の疾患名はICD-10コードで提供されるため、患者調査で用いる疾病大分類に準じて分類化を行った³⁾。なお、本報告では、悪性新生物は全ての悪性新生物を合算した値で示し、消化器系疾患も全ての値を合算している。

2) 推計総入院患者数の算出について

患者調査では、病院入院患者調査について「10月中旬の3日間のうち医療施設ごとに定める1日。」⁴⁾、平成23年調査は「平成23年10月18日(火)～20日(木)の3日間のうち病院ごとに指定した1日」⁵⁾としており、あくまでも一時点での調査であることから、推計総入院患者数を算出する必要がある。

そこで本報告では推計総入院患者数算出にあたり、平成23年度患者調査の個票に付された拡大乗数による重みをつけた。拡大乗数は厚生労働省において付されているものである。

ここでは、入院患者に関して、1年の推計総入院患者数を以下の推計式を用いて算出した。

$$\text{推計総入院患者数} = \text{入院患者数(実数)} \times (\text{拡大乗数} / 1000)$$

なお、厚生労働省患者調査では、総患者数を下記のように示しているが⁵⁾、本報告では、入院患者に限定しているため、厚生労働省患者調査の総患者数とは値の性質が異なることをあらかじめ示しておく。

「総患者数…調査日現在において、継続的に医療を受けている者(調査日には医療施設を受療していない者も含む。)の数を次の算式により推計したものである。」

$$\text{総患者数} = \text{入院患者数} + \text{初診外来患者数} + (\text{再来外来患者数} \times \text{平均診療間隔} \times \text{調整係数}(6/7))$$

結 果

1. 平成23年患者調査結果について

表1に福井県内の患者住所地に基づく医療圏(以下、医療圏とする。)別にみた入院患者調査数を性別に示した。福井県全体の入院患者調査総数は男性1,835

名、女性2,310名の計4,145名であった。福井県全調査対象者に対する各医療圏における入院患者調査者の分布は、福井・坂井医療圏の41.4%、奥越医療圏の8.9%、丹南医療圏の26.9%、そして嶺南医療圏の22.7%であった。この医療圏別の入院患者調査数の分布は男女ともに適応されている。また、各医療圏ともに男女比は1:1.25にほぼ調整されている。

医療圏別にみた入院患者調査数の年齢分布を表2に示した。各医療圏の年齢分布に大差は認められなかった。

本報告における疾病分類に関する解析については、年齢層による疾病構造の相違を考慮し、さらに詳細な記述を目的として、関連する結果を年齢区分(20歳未満、20歳以上65歳未満および65歳以上)の3区分別に示すこととした。なお、年齢区分別の解析に際しては、年齢不詳例14名を除外した4,131名を解析対象とした。性別および医療圏別の年齢区分別の入院患者調査数の分布を表3に示した。65歳以上の割合は、福井・坂井両医療圏で71.9%、奥越医療圏で76.7%、丹南医療圏で71.4%、嶺南医療圏で73.8%であり、入院患者数に占める65歳以上高齢者の割合は奥越医療圏で最も高い割合を示した(表3)。

表1 患者住所地(医療圏)別および性別の入院患者調査数の分布(%)

患者住所地医療圏	性別		合計
	男性	女性	
福井・坂井	41.3	41.5	41.4
奥越	8.9	8.9	8.9
丹南	26.9	27.0	26.9
嶺南	22.8	22.6	22.7
合計(人)	1,835	2,310	4,145

表2 医療圏別の年齢5歳階級別の入院患者調査数の分布(%)

医療圏 年齢	福井・ 坂井	奥越	丹南	嶺南	計
0歳	0.6	0.0	0.6	0.5	0.6
1～4歳	0.5	0.5	0.3	1.0	0.6
5～9歳	0.3	0.0	0.4	0.3	0.3
10～14歳	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2
15～19歳	0.5	0.5	0.4	0.3	0.4
20～24歳	1.2	0.8	0.4	0.6	0.8
25～29歳	1.1	1.1	0.4	0.3	0.7
30～34歳	1.9	1.1	1.4	1.2	1.5
35～39歳	1.4	0.5	1.4	1.7	1.4
40～44歳	1.9	1.1	1.4	1.3	1.6
45～49歳	1.5	1.4	2.7	2.3	2.0
50～54歳	3.1	2.7	3.6	3.5	3.3
55～59歳	4.7	3.8	5.0	5.1	4.8
60～64歳	9.0	9.5	10.5	7.6	9.1
65～69歳	7.3	5.1	6.0	7.3	6.8
70～74歳	9.3	10.8	8.4	9.6	9.2
75～79歳	14.0	14.4	13.5	13.7	13.8
80～84歳	15.6	18.2	16.3	17.4	16.4
85～89歳	13.7	15.4	13.7	15.1	14.2
90～94歳	7.7	10.3	8.7	8.0	8.3
95～99歳	3.3	2.2	4.3	2.5	3.3
100歳以上	0.5	0.3	0.4	0.1	0.4
年齢不詳	0.7	0.0	0	0.2	0.3
合計(人)	1,717	369	1,117	942	4,145

表3 医療圏別の年齢3区分別の入院患者調査数の分布(%)

医療圏 年齢	福井・ 坂井	奥越	丹南	嶺南	計
20歳未満	2.2	1.4	1.8	2.4	2.1
20～64歳	25.9	22.0	26.9	23.7	25.3
65歳以上	71.9	76.7	71.4	73.8	72.6
合計(人)	1,705	369	1,117	940	4,131

2. 性別にみた疾病分類別入院患者調査数および推計数

表4に性別および疾病分類別の入院患者推計数を示した。

平成23年調査における福井県の入院患者調査数は表4に示すとおり、男性1,835人および女性2,310人の計4,145名であった。入院患者調査数から算出される推計数に基づいて疾病構成をみると、男性では「精神及び行動の障害」の推計入院患者総数に対する割合が18.8%と最も多く、以下、第2位の「循環器系疾患」(18.1%)、第3位の「悪性新生物」(13.9%)、そして第4位の「呼吸器系疾患」(10.2%)の順であった。同様に女性では、「循環器疾患」の17.3%が最も多く、以下第2位の「精神及び行動の障害」16.4%、第3位の「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」(12.3%)、第4位の「悪性新生物」9.2%の順であった。

疾病別入院患者推計数における性差が比較的大きい疾病は、「良性またはその他の新生物」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「腎尿路生殖器系の疾患」および「神経系の疾患」であり、いずれも男性より女性で多く、それぞれ、男性の2.5倍、2.4倍、1.8倍、1.5倍であった。

3. 年齢区分別にみた疾病分類別入院患者推計数

表5に年齢区分(20歳未満、20歳～64歳、65歳以上)別および疾病分類別の入院患者推計数を示した。

20歳未満の群では、「呼吸器系疾患」が第1位(当該年齢区分の推計入院患者総数に対して21.2%、以下同様に示す。)、第2位は「周産期に発生した病態」(17.4%)、第3位は「悪性新生物」(8.1%)、第4位は「精神及び行動の障害」(7.7%)、第5位は「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」(6.9%)の順であった。

20歳～64歳の群では、「精神及び行動の障害」が第1位(34.6%)であり、以下、第2位は「悪性新生物」(11.9%)、第3位は「循環器疾患」(9.3%)、第4位は「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」(7.7%)、第5位は「神経系の疾患」(6.5%)の順であった。

65歳以上の群では、「循環器系疾患」が第1位(21.1%)であり、以下、第2位は「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」(12.2%)、第3位は「精神及び行動の障害」(11.7%)、第4位は「悪性新生物」(11.2%)、第5位は「呼吸器系疾患」(10.7%)の順となった。

表4 性別にみた疾病分類別入院患者推計数

疾病分類(大分類)	実数			推計					
	男性	女性	計	男性		女性		計	
				推計数	%	推計数	%	推計数	%
感染症及び寄生虫症	32	24	56	75	1.8	56	1.1	131	1.4
悪性新生物	225	194	419	587	13.9	470	9.2	1057	11.3
良性またはその他の新生物	10	24	34	24	0.6	61	1.2	85	0.9
血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	10	10	20	29	0.7	24	0.5	53	0.6
内分泌、栄養及び代謝疾患	36	58	94	88	2.1	128	2.5	215	2.3
精神及び行動の障害	380	419	799	796	18.8	834	16.4	1630	17.5
神経系の疾患	123	203	326	267	6.3	406	8.0	673	7.2
眼及び付属器の疾患	17	22	39	44	1.0	55	1.1	99	1.1
耳及び乳様突起の疾患	6	6	12	14	0.3	14	0.3	28	0.3
循環器疾患	336	400	736	766	18.1	880	17.3	1646	17.6
呼吸器系疾患	183	176	359	432	10.2	401	7.9	833	8.9
消化器系の疾患	116	106	222	274	6.5	243	4.8	517	5.5
皮膚及び皮下組織の疾患	25	34	59	57	1.3	75	1.5	132	1.4
筋骨格系及び結合組織の疾患	66	165	231	161	3.8	380	7.5	541	5.8
腎尿路生殖器系の疾患	48	83	131	106	2.5	190	3.7	296	3.2
妊娠、分娩及び産じょく	-	34	34	-	-	80	1.6	80	0.9
周産期に発生した病態	8	9	17	23	0.5	22	0.4	160	1.7
先天奇形、変形及び染色体異常	5	4	9	12	0.3	9	0.2	21	0.2
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23	27	50	52	1.2	66	1.3	118	1.3
損傷、中毒及びその他の外傷の影響	170	278	448	392	9.3	627	12.3	1020	10.9
その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	16	34	50	37	0.9	78	1.5	115	1.2
合計	1835	2310	4145	4236		5100		9336	

表5 年齢区分にみた疾病別入院患者推計数

疾病分類(大分類)	実数				推計							
	20歳未満	20歳～64歳	65歳以上	計	20歳未満		20歳～64歳		65歳以上		計	
					推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%
感染症及び寄生虫症	3	14	39	56	9	3.5	36	1.5	86	1.3	131	1.4
悪性新生物	5	111	301	417	21	8.1	286	11.9	751	11.2	1058	11.3
良性またはその他の新生物	1	16	17	34	3	1.2	39	1.6	42	0.6	84	0.9
血液及び造血管の疾患並びに免疫機構の障害	2	6	12	20	6	2.3	17	0.7	30	0.4	53	0.6
内分泌、栄養及び代謝疾患	1	24	69	94	3	1.2	64	2.7	149	2.2	216	2.3
精神及び行動の障害	7	390	401	798	20	7.7	830	34.6	780	11.7	1630	17.4
神経系の疾患	6	71	247	324	17	6.6	155	6.5	502	7.5	674	7.2
眼及び付属器の疾患	0	10	29	39	0	0.0	25	1.0	75	1.1	100	1.1
耳及び乳様突起の疾患	0	6	6	12	0	0.0	13	0.5	15	0.2	28	0.3
循環器疾患	1	95	637	733	10	3.9	223	9.3	1414	21.1	1647	17.6
呼吸器系疾患	22	28	308	358	55	21.2	63	2.6	715	10.7	833	8.9
消化器系の疾患	6	56	160	222	15	5.8	131	5.5	376	5.6	522	5.6
皮膚及び皮下組織の疾患	0	10	47	57	5	1.9	24	1.0	104	1.6	133	1.4
筋骨格系及び結合組織の疾患	4	49	177	230	13	5.0	118	4.9	409	6.1	540	5.8
腎尿路生殖器系の疾患	1	28	102	131	2	0.8	66	2.8	229	3.4	297	3.2
妊娠、分娩及び産じょく	0	34	0	34	0	0.0	81	3.4	0	0.0	81	0.9
周産期に発生した病態	16	0	0	16	45	17.4	0	0.0	0	0.0	45	0.5
先天奇形、変形及び染色体異常	4	4	1	9	10	3.9	9	0.4	2	0.0	21	0.2
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2	6	42	50	5	1.9	14	0.6	96	1.4	115	1.2
損傷、中毒及びその他の外傷の影響	5	78	364	447	18	6.9	184	7.7	818	12.2	1020	10.9
その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	9	41	50	2	0.8	21	0.9	93	1.4	116	1.2
合計	86	1045	3000	4131	259		2399		6686		9344	

4. 医療圏別にみた疾病分類別入院患者推計数

表6に各医療圏における疾病分類別入院患者調査数と推計患者数を示した。

ほとんどの項目において、福井・坂井医療圏の入院患者推計数は他の医療圏に比べて多かった。

医療圏別にその疾病構造を比較すると、福井・坂井医療圏では、「循環器疾患」が最も多く(当該医療圏の推定患者総数に対して18.3%、以下同様に示す)、次いで、「精神及び行動の障害」(15.7%)が第2位、第3位は「悪性新生物」(14.1%)、第4位は「呼吸器系疾患」(11.5%)、第5位は「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」(8.8%)の順となった。

奥越医療圏では、「精神及び行動の障害」が第1位(21.6%)、以下、第2位は「循環器疾患」(18.6%)、第3位は「悪性新生物」(18.0%)、第4位は「呼吸器系疾患」(11.4%)、第5位は「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」(7.5%)の順となった。

丹南医療圏では、「精神及び行動の障害」が第1位(21.8%)、以下、第2位は「循環器疾患」(20.0%)、第3位は「悪性新生物」(13.0%)、第4位は「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」(10.9%)、第5位は「呼吸器系疾患」(7.9%)の順となった。

嶺南医療圏では、「精神及び行動の障害」が第1位(21.0%)、以下、第2位は「循環器疾患」(14.8%)、第3位は「悪性新生物」(12.6%)、第4位は「呼吸器系疾患」(9.7%)、第5位は「損傷、中毒及びその他の外傷の影響と消化器系の疾患」(8.9%)の順となった。

福井・坂井医療圏を除く他のすべての医療圏において「精神および行動の障害」が最も入院患者の多い疾患であることが認められた。

5. 20歳未満における医療圏別にみた疾病分類別入院患者推計数

表7に、各医療圏における20歳未満の疾病分類別入院患者推定数を男女別に示した。

入院患者推計数総数で見ると、男女ともに福井・坂井医療圏が最も入院患者推計数が多く、以下、男性では丹南医療圏、嶺南医療圏および奥越医療圏の順であった。女性では、福井・坂井医療圏に次いで、嶺南医療圏、丹南医療圏および奥越医療圏の順であった。

入院患者推計数から20歳未満の疾病構造を性別に

みると、男性では、「呼吸器系の疾患」が最も多く、次いで「周産期に発生した病態」、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」、「悪性新生物」、「消化器系の疾患」の順であった。女性では、「呼吸器系の疾患」が最も多く、次いで「周産期に発生した病態」、「精神及び行動の障害」、「悪性新生物」そして「神経系の疾患」および「循環器疾患」の順となった。

同様に医療圏別に疾病構造をみると、男性では、福井・坂井医療圏で「悪性新生物」が最も多く、次いで「周産期に発生した病態」、「呼吸器系の疾患」の順であった。丹南医療圏では「周産期に発生した病態」が最も多く、次に「呼吸器系の疾患」、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の順となった。嶺南地区では「呼吸器系の疾患」が最も多く、以下、「消化器系の疾患」、「精神及び行動の障害」、「神経系の疾患」の順となった。一方、女性では、福井・坂井医療圏が「周産期に発生した病態」が最も多く、次いで「呼吸器系の疾患」、「精神および行動の障害」の順であった。奥越医療圏では「呼吸器系の疾患」が最も多く、次いで「精神および行動の障害」、「神経系の疾患」の順であった。丹南医療圏では、「神経系の疾患」および「呼吸器系の疾患」が最も多く、次いで「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「周産期に発生した病態」の順であった。嶺南医療圏では、「呼吸器系の疾患」が最も多く、「悪性新生物」、「血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が続いた。

6. 20歳以上65歳未満における医療圏別にみた疾病分類別入院患者推計数

表8に各医療圏における男女別の20歳以上65歳未満の入院患者推計数者を男女別に示した。

入院患者推計数総数で見ると、男女ともに福井・坂井医療圏が最も入院患者推計数が多く、以下、丹南医療圏、嶺南医療圏および奥越医療圏の順であった。

入院患者推計数から20歳以上65歳未満の疾病構造を性別にみると、男性では、「精神及び行動の障害」が34.8%と最も多く、次いで「悪性新生物」の14.0%、「循環器疾患」の11.6%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の9.4%、「消化器系の疾患」の6.4%の順であった。女性では、男性と同様に「精神及び行動の障害」が34.4%と最も多く、次いで、「悪

表6 平成23年疾病分類別医療圏別入院患者推計数

疾病分類（大分類）	福井・坂井		奥越		丹南		嶺南		合計	
	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%
感染症及び寄生虫症	27	1.4	12	3.3	7	0.6	29	3.5	75	1.8
悪性新生物	278	14.1	65	18.0	141	13.0	103	12.6	587	13.9
良性またはその他の新生物	8	0.4	7	1.9	6	0.6	2	0.2	23	0.5
血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	15	0.8	3	0.8	9	0.8	2	0.2	29	0.7
内分泌、栄養及び代謝疾患	49	2.5	2	0.6	19	1.8	17	2.1	87	2.1
精神及び行動の障害	309	15.7	78	21.6	236	21.8	172	21.0	795	18.8
神経系の疾患	141	7.2	22	6.1	48	4.4	56	6.8	267	6.3
眼及び付属器の疾患	35	1.8	4	1.1	2	0.2	3	0.4	44	1.0
耳及び乳様突起の疾患	8	0.4	0	0.0	4	0.4	2	0.2	14	0.3
循環器疾患	360	18.3	67	18.6	217	20.0	121	14.8	765	18.1
呼吸器系疾患	227	11.5	41	11.4	86	7.9	79	9.7	433	10.2
消化器系の疾患	108	5.5	16	4.4	75	6.9	73	8.9	272	6.4
皮膚及び皮下組織の疾患	34	1.7	2	0.6	10	0.9	12	1.5	58	1.4
筋骨格系及び結合組織の疾患	90	4.6	9	2.5	37	3.4	24	2.9	160	3.8
腎尿路生殖器系の疾患	46	2.3	2	0.6	30	2.8	29	3.5	107	2.5
妊娠、分娩及び産じょく	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
周産期に発生した病態	11	0.6	0	0.0	12	1.1	0	0.0	23	0.5
先天奇形、変形及び染色体異常	6	0.3	0	0.0	2	0.2	4	0.5	12	0.3
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23	1.2	4	1.1	10	0.9	13	1.6	50	1.2
損傷、中毒及びその他の外傷の影響	174	8.8	27	7.5	118	10.9	73	8.9	392	9.3
その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	19	1.0	0	0.0	14	1.3	4	0.5	37	0.9
合計	1,968	100.0	361	100.0	1,083	100.0	818	100.0	4,230	100.0

表7 20歳未満の平成23年疾病分類別性別・医療圏別入院患者推計数

疾病分類 (大分類)	男性										女性										男女合計	
	福井・坂井		奥越		丹南		嶺南		男性計		福井・坂井		奥越		丹南		嶺南		女性計			
	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%
感染症及び寄生虫症	6	9.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	4.4	3	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4	9	3.5
悪性新生物	12	17.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12	8.8	6	8.5	0	0.0	0	0.0	3	10.7	9	7.3	21	8.1
良性またはその他の新生物	3	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.2
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.2	0	0.0	0	0.0	3	10.7	6	4.9	6	2.3
内分泌、栄養及び代謝疾患	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4	3	1.2
精神及び行動の障害	0	0.0	0	0.0	3	8.1	4	13.3	7	5.1	8	11.3	3	33.3	0	0.0	2	7.1	13	10.6	20	7.7
神経系の疾患	5	7.5	0	0.0	0	0.0	4	13.3	9	6.6	2	2.8	2	22.2	4	26.7	0	0.0	8	6.5	17	6.6
眼及び付属器の疾患	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
耳及び乳様突起の疾患	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
循環器疾患	2	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.5	5	7.0	0	0.0	3	20.0	0	0.0	8	6.5	10	3.9
呼吸器系疾患	10	14.9	0	0.0	8	21.6	10	33.3	28	20.6	11	15.5	4	44.4	4	26.7	8	28.6	27	22.0	55	21.2
消化器系の疾患	3	4.5	0	0.0	0	0.0	7	23.3	10	7.4	5	7.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	4.1	15	5.8
皮膚及び皮下組織の疾患	3	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.2	2	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.6	5	1.9
筋骨格系及び結合組織の疾患	3	4.5	0	0.0	3	8.1	3	10.0	9	6.6	0	0.0	0	0.0	2	13.3	2	7.1	4	3.3	13	5.0
腎尿路生殖器系の疾患	0	0.0	0	0.0	2	5.4	0	0.0	2	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.8
妊娠、分娩及び産じょく	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
周産期に発生した病態	11	16.4	0	0.0	12	32.4	0	0.0	23	16.9	18	25.4	0	0.0	2	13.3	2	7.1	22	17.9	45	17.4
先天奇形、変形及び染色体異常	3	4.5	0	0.0	2	5.4	2	6.7	7	5.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	10.7	3	2.4	10	3.9
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	2.8	0	0.0	0	0.0	3	10.7	5	4.1	5	1.9
損傷、中毒及びその他の外傷の影響	6	9.0	2	100.0	7	18.9	0	0.0	15	11.0	3	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4	18	6.9
その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	7.1	2	1.6	2	0.8
合計	67	100.0	2	100.0	37	100.0	30	100	136	100.0	71	100.0	9	100.0	15	100.0	28	100.0	123	100.0	259	100.0

表8 20歳～65歳未満の平成23年疾病分類別性別・医療圏別入院患者推計数

疾病分類 (大分類)	男性										女性										男女合計	
	福井・坂井		奥越		丹南		嶺南		男性計		福井・坂井		奥越		丹南		嶺南		女性計			
	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%
感染症及び寄生虫症	14	2.4	10	9.5	3	0.8	4	1.6	31	2.4	3	0.6	0	0.0	2	0.7	0	0.0	5	0.5	36	1.5
悪性新生物	66	11.2	22	21.0	36	9.8	29	11.6	153	11.7	60	11.7	11	13.8	38	12.9	24	11.8	133	12.2	286	11.9
良性またはその他の新生物	0	0.0	4	3.8	2	0.5	0	0.0	6	0.5	16	3.1	0	0.0	13	4.4	4	2.0	33	3.0	39	1.6
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2	0.3	3	2.9	7	1.9	0	0.0	12	0.9	5	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.5	17	0.7
内分泌、栄養及び代謝疾患	20	3.4	0	0.0	11	3.0	6	2.4	37	2.8	8	1.6	10	12.5	7	2.4	2	1.0	27	2.5	64	2.7
精神及び行動の障害	185	31.5	30	28.6	152	41.3	88	35.3	455	34.8	187	36.5	23	28.8	99	33.6	66	32.5	375	34.4	830	34.6
神経系の疾患	25	4.3	2	1.9	19	5.2	32	12.9	78	6.0	21	4.1	10	12.5	22	7.5	24	11.8	77	7.1	155	6.5
眼及び付属器の疾患	12	2.0	2	1.9	0	0.0	0	0.0	14	1.1	6	1.2	0	0.0	0	0.0	5	2.5	11	1.0	25	1.0
耳及び乳様突起の疾患	5	0.9	0	0.0	2	0.5	0	0.0	7	0.5	2	0.4	0	0.0	4	1.4	0	0.0	6	0.6	13	0.5
循環器疾患	71	12.1	8	7.6	44	12.0	29	11.6	152	11.6	40	7.8	4	5.0	17	5.8	10	4.9	71	6.5	223	9.3
呼吸器系の疾患	25	4.3	2	1.9	9	2.4	0	0.0	36	2.8	17	3.3	4	5.0	0	0.0	6	3.0	27	2.5	63	2.6
消化器系の疾患	29	4.9	7	6.7	26	7.1	22	8.8	84	6.4	22	4.3	4	5.0	10	3.4	11	5.4	47	4.3	131	5.5
皮膚及び皮下組織の疾患	17	2.9	0	0.0	0	0.0	2	0.8	19	1.5	3	0.6	0	0.0	0	0.0	2	1.0	5	0.5	24	1.0
筋骨格系及び結合組織の疾患	19	3.2	7	6.7	17	4.6	8	3.2	51	3.9	39	7.6	3	3.8	19	6.4	6	3.0	67	6.1	118	4.9
腎尿路生殖器系の疾患	17	2.9	2	1.9	6	1.6	2	0.8	27	2.1	18	3.5	5	6.3	9	3.1	7	3.4	39	3.6	66	2.8
妊娠、分娩及び産じょく	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	47	9.2	0	0.0	13	4.4	21	10.3	81	7.4	81	3.4
周産期に発生した病態	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
先天奇形、変形及び染色体異常	3	0.5	0	0.0	0	0.0	2	0.8	5	0.4	2	0.4	0	0.0	2	0.7	0	0.0	4	0.4	9	0.4
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	4	0.7	0	0.0	4	1.1	2	0.8	10	0.8	0	0.0	0	0.0	4	1.4	0	0.0	4	0.4	14	0.6
損傷、中毒及びその他の外傷の影響	70	11.9	6	5.7	28	7.6	19	7.6	123	9.4	8	1.6	6	7.5	32	10.8	15	7.4	61	5.6	184	7.7
その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3	0.5	0	0.0	2	0.5	4	1.6	9	0.7	8	1.6	0	0.0	4	1.4	0	0.0	12	1.1	21	0.9
合計	587	100.0	105	100.0	368	100.0	249	100	1309	100.0	512	100.0	80	100.0	295	100.0	203	100.0	1090	100.0	2399	100.0

性新生物」の12.2%、「妊娠、分娩及び産褥」の7.4%、「神経系の疾患」の7.1%、「循環器疾患」の6.5%の順となった。

医療圏別に男性の疾病構造をみると、福井・坂井医療圏では「精神及び行動の障害」31.5%と最も多く、次いで「循環器疾患」の12.1%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の11.9%、「悪性新生物」の11.2%の順となった。奥越医療圏も同様に「精神及び行動の障害」が28.6%と最も多く、以下「悪性新生物」の21.0%、「感染症及び寄生虫症」の9.5%、「循環器疾患」の17.6%、「消化器系疾患」および「筋骨格系及び結合組織の疾患」の6.7%の順であった。丹南医療圏でも同様に「精神及び行動の障害」が41.3%と最も多く、以下「循環器疾患」の12.0%、「悪性新生物」の9.8%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の7.6%、「消化器系の疾患」の7.1%の順であった。嶺南医療圏においても「精神及び行動の障害」が35.3%と最も多く、以下「神経系の疾患」の12.9%、「悪性新生物」および「循環器疾患」の11.6%、そして「消化器系の疾患」の8.8%の順となった。

同様に女性についてみると、福井・坂井医療圏では、男性と同様に「精神及び行動の障害」が36.5%と最も多く、以下、「悪性新生物」の11.7%、「妊娠、分娩及び産褥」の19.2%、「循環器疾患」の7.8%、「筋骨格系及び結合組織の疾患」の7.6%の順となった。奥越医療圏においても「精神及び行動の障害」が28.8%と最も多く、以下「悪性新生物」の13.8%、「内分泌、栄養及び代謝疾患」および「神経系の疾患」の12.5%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の7.5%の順となった。丹南医療圏でも同様に「精神及び行動の障害」が33.6%と最も多く、以下「悪性新生物」の12.9%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の10.8%、「神経系の疾患」の7.5%、そして「筋骨格系及び結合組織の疾患」の6.4%の順となった。嶺南医療圏でも同様に「精神及び行動の障害」が32.5%と最も多く、以下、「悪性新生物」の11.8%、「神経系の疾患」の11.8%、「妊娠、分娩及び産褥」の10.3%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の7.4%の順であった。

7. 65歳以上の医療圏別にみた疾病分類別入院患者推計数

表9に各医療圏における男女別の65歳以上の入院患者推計数者を男女別に示した。

入院患者推計数総数でみると、男女ともに福井・坂井医療圏が最も入院患者推計数が多く、以下、丹南医療圏、嶺南医療圏および奥越医療圏の順であり、20歳以上65歳未満での推計数の傾向と同様であった。

入院患者推計数から65歳以上の疾病構造を性別にみると、男性では、「循環器疾患」が21.9%と最も多く、次いで「悪性新生物」の15.2%、「呼吸器系の疾患」の13.2%、「精神及び行動の障害」の12.0%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の9.1%の順であった。女性では、男性と同様に「循環器疾患」が20.6%と最も多く、次いで、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の14.5%、「精神及び行動の障害」の11.5%、「呼吸器系の疾患」の8.9%、「悪性新生物」の8.4%の順となった。

医療圏別に男性の疾病構造をみると、福井・坂井医療圏では「循環器疾患」21.8%と最も多く、次いで「悪性新生物」の15.2%、「呼吸器系の疾患」の14.6%、「精神及び行動の障害」の9.4%、「神経系の疾患」の8.4%の順となった。奥越医療圏も同様に「循環器疾患」が23.2%と最も多く、以下「精神及び行動の障害」の18.9%、「悪性新生物」の16.9%、「呼吸器系の疾患」の15.4%、「神経系の疾患」の7.9%の順であった。丹南医療圏でも同様に「循環器疾患」が25.5%と最も多く、以下「悪性新生物」の15.5%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の12.2%、「精神及び行動の障害」の11.9%、「呼吸器系の疾患」の10.2%の順であった。嶺南医療圏においても「循環器疾患」が17.1%と最も多かったが他の医療圏に比べてその割合は比較的低かった。同様に以下、「精神及び行動の障害」の14.8%、「悪性新生物」の13.7%、「呼吸器系の疾患」の12.8%、そして「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の10.0%の順となった。

女性についてみると、福井・坂井医療圏では、男性と同様に「循環器疾患」が21.6%と最も多く、以下、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の16.2%、「悪性新生物」の10.0%、「筋骨格系及び結合組織の疾患」の8.9%、「呼吸器系の疾患」の8.0%の順となった。奥越医療圏においては「精神及び行動の障害」が

表9 65歳以上の平成23年疾病分類別性別・医療圏別入院患者推計数

疾病分類 (大分類)	男性										女性										男女合計	
	福井・坂井		奥越		丹南		嶺南		男性計		福井・坂井		奥越		丹南		嶺南		女性計		推計数	%
	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%	推計数	%		
感染症及び寄生虫症	7	0.5	2	0.8	4	0.6	25	4.6	38	1.4	23	1.3	8	2.3	2	0.2	15	1.8	48	1.2	86	1.3
悪性新生物	200	15.2	43	16.9	105	15.5	74	13.7	422	15.2	176	10.0	29	8.5	61	6.3	63	7.5	329	8.4	751	11.2
良性またはその他の新生物	5	0.4	3	1.2	4	0.6	2	0.4	14	0.5	9	0.5	2	0.6	14	1.5	3	0.4	28	0.7	42	0.6
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	13	1.0	0	0.0	2	0.3	2	0.4	17	0.6	5	0.3	0	0.0	2	0.2	6	0.7	13	0.3	30	0.4
内分泌、栄養及び代謝疾患	29	2.2	2	0.8	8	1.2	11	2.0	50	1.8	28	1.6	11	3.2	25	2.6	35	4.2	99	2.5	149	2.2
精神及び行動の障害	124	9.4	48	18.9	81	11.9	80	14.8	333	12.0	136	7.8	70	20.4	106	11.0	135	16.1	447	11.5	780	11.7
神経系の疾患	111	8.4	20	7.9	29	4.3	20	3.7	180	6.5	139	7.9	31	9.0	72	7.5	80	9.5	322	8.3	502	7.5
眼及び付属器の疾患	23	1.8	2	0.8	2	0.3	3	0.6	30	1.1	23	1.3	0	0.0	10	1.0	12	1.4	45	1.2	75	1.1
耳及び乳突突起の疾患	3	0.2	0	0.0	2	0.3	2	0.4	7	0.3	6	0.3	0	0.0	2	0.2	0	0.0	8	0.2	15	0.2
循環器疾患	287	21.8	59	23.2	173	25.5	92	17.1	611	21.9	378	21.6	66	19.2	224	23.2	135	16.1	803	20.6	1414	21.1
呼吸器系の疾患	192	14.6	39	15.4	69	10.2	69	12.8	369	13.2	141	8.0	25	7.3	97	10.1	83	9.9	346	8.9	715	10.7
消化器系の疾患	76	5.8	9	3.5	49	7.2	44	8.2	178	6.4	90	5.1	21	6.1	49	5.1	38	4.5	198	5.1	376	5.6
皮膚及び皮下組織の疾患	14	1.1	2	0.8	10	1.5	10	1.9	36	1.3	29	1.7	0	0.0	11	1.1	28	3.3	68	1.7	104	1.6
筋骨格系及び結合組織の疾患	68	5.2	2	0.8	17	2.5	13	2.4	100	3.6	156	8.9	18	5.2	76	7.9	59	7.0	309	7.9	409	6.1
腎尿路生殖器系の疾患	29	2.2	0	0.0	22	3.2	27	5.0	78	2.8	69	3.9	11	3.2	34	3.5	37	4.4	151	3.9	229	3.4
妊娠、分娩及び産後	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
周産期に発生した病態	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
先天奇形、変形及び染色体異常	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	2	0.1	2	0.0
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	19	1.4	4	1.6	6	0.9	11	2.0	40	1.4	36	2.1	4	1.2	6	0.6	10	1.2	56	1.4	96	1.4
損傷、中毒及びその他の外傷の影響	98	7.5	19	7.5	83	12.2	54	10.0	254	9.1	284	16.2	34	9.9	150	15.5	96	11.4	564	14.5	818	12.2
その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	16	1.2	0	0.0	12	1.8	0	0.0	28	1.0	26	1.5	13	3.8	22	2.3	4	0.5	65	1.7	93	1.4
合計	1314	100.0	254	100.0	678	100.0	539	100	2785	100.0	1754	100.0	343	100.0	965	100.0	839	100.0	3901	100.0	6686	100.0

20.4%と最も多く、以下「循環器疾患」の19.2%、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の9.9%、「神経系の疾患」の9.0%、「悪性新生物」の8.5%の順となった。丹南医療圏は、「循環器疾患」が23.2%と最も多く、以下「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の15.5%、「精神及び行動の障害」の11.0%、「呼吸器系の疾患」の10.1%、そして「筋骨格系及び結合組織の疾患」の7.9%の順となった。嶺南医療圏では、「精神及び行動の障害」及び「循環器疾患」がともに16.1%と最も多く、以下、「損傷、中毒及びその他の外傷の影響」の11.4%、「呼吸器系の疾患」の9.9%、「神経系の疾患」の9.5%の順であった。

考 察

(1) 福井県内における嶺南地域の状況

平成23年度に厚生労働省が実施した患者調査のうち、病院入院(奇数)票に基づいて、福井県内の医療圏別の疾病分類別患者調査数を算定し、さらに調査数に基づいて入院患者推定数を求めた。

入院患者推定数から嶺南地域の疾病構造を記述す

ると、「精神及び行動の障害」が最も多く、次いで、「循環器疾患」、「悪性新生物」の生活習慣病による入院が多いことが認められた。この傾向は他の医療圏においてもほぼ同様の傾向を持つことが認められた。

また、入院患者推定数として多くはないものの、福井県内で見えた場合、嶺南医療圏の入院患者に多くみられる疾病(疾病の構成割合が他の医療圏に比べて高い疾病)として「感染症および寄生虫症」、「消化器系の疾患」、「腎尿路生殖器系疾患」が4医療圏中第1位となった疾患であった。他の疾病に比べて嶺南医療圏に多くみられたこれらの疾病については、年齢・性別で特徴がみられ、「感染症及び寄生虫症」および「腎尿路生殖器系疾患」は65歳以上男性に多く、嶺南地域特有の疾病構造あるいは入院行動を示す可能性がある。

我が国の政策医療である5疾病・5事業のうち、がんについては嶺南医療圏からの患者流出率が33.2%(県外流出2.1%を含む)と全疾病の平均(13.5%)を大きく上回っているが、今回の解析でも同様の結果を得ることができた。

(2) 嶺南医療圏における性別の違いによる傾向

性別では、男性では悪性新生物、循環器疾患での入院で値が高い傾向がみられた。

女性の精神及び行動の障害について、年齢3区分いずれにおいても高い順位であった。その他、女性に多い疾病として骨折といった整形外科系疾患に代表される「損傷・中毒及びその他の外傷の影響」、糖尿病に代表される「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「神経系の疾患」が多くみられた。今後、女性の整形外科系疾患ならびに内分泌系疾患、神経系疾患には注目すべきと考える。

(3) 嶺南医療圏における年齢3区分別の傾向について

20歳未満では、男女ともに呼吸器系疾患での入院が多かったが、周産期に発生した病態を除くと、次に多いのは男性では「消化器系の疾患」、「精神及び行動の障害」、「神経系の疾患」による入院が多かった。一方、女性では顕著な傾向は認められなかった。

20歳以上65歳未満では、「精神及び行動の障害」が男女ともに30%以上と著しく多く、この傾向は嶺南医療圏にとどまらず他の医療圏においても同様の傾向を示した。

65歳以上では「循環器疾患」が上位に挙がってくるものの、20歳以上65歳未満での傾向と同様に男女とも「精神及び行動の障害」が上位を占め、他の医療圏における「悪性新生物」が概ね上位を占める傾向とは異なる傾向を示した。

人口動態統計による福井県の疾病構造をみると、全国の疾病構造と同様に、悪性新生物、心疾患、肺炎および脳血管疾患の死亡が上位4位を占め、これら疾患の死亡全体に占める割合は66%以上を占めている。一方、本研究の結果から、入院を要した患者からみた疾病構造から、「精神および行動の障害」が福井県のいずれの医療圏においても上位を占め、特に嶺南医療圏における20歳から65歳未満の年齢区分でその傾向が顕著であることが認められた。この年齢階級における傾向は、渡辺らが福岡県で検討した結果と同様であり⁶⁾、また、うつ病に関する我が国の調査でも20歳以上65歳未満の年齢区分でその有病率の高いことが指摘されている⁷⁾。

以上の結果から、地域の医療実態を明らかにするためには、死亡統計のみでは不十分である。すなわ

ち、「精神および行動の障害」に代表されるように、死亡に至らないがしかし医療需要の高い疾患の動向を把握する必要があることが本検討から強く示唆された。

(4) 本研究の限界と今後の課題

本解析では厚生労働省が実施した患者調査のうち、病院入院(奇数)票に基づいて解析を行った。従って、本解析で示した患者数は「入院を要した患者」の疾病構造を示したに過ぎない。地域における疾病構造を明らかにするためには、入院患者に加えて外来通院患者および訪問医療患者等を含む実績から有病数を求め、さらには年齢調整有病率を求めたうえで地域比較を行い、特定の地域の疾病構造を議論する必要がある。今後、一般診療所票、病院外来奇数票あるいは病院および診療所退院票等を加え、可能な限り有病数を把握すべく患者調査データの活用を行う必要がある。

また、今回の解析結果を踏まえ、嶺南医療圏だけでなく福井県における全医療圏の特徴的な疾病を加えより詳細な疾病構造の解明を行う必要がある。

謝 辞

本研究の実施にあたり、敦賀市役所ほか関係各位に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 福井県, 第6次福井県保健医療計画, P22、平成25年3月。
- 2) 浅田昭司, 統計情報活用への招待 第5回 医療・福祉・健康の公的統計, 情報管理, 54(8), 487-495. 2011.
- 3) 厚生労働省 平成23年患者調査(疾病分類編)
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/10syoubu/dl/h23syoby.pdf>
- 4) 厚生労働省 患者調査(調査の概要)
http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20-tyousa_gaiyou.html
- 5) 厚生労働省 平成23年(2011)患者調査の概要
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/11/dl/gaiyou.pdf>.

- 6) 渡辺ゆかり、藤田利治. 二次医療圏との関連からみた福岡県における精神障害者の受療実態. 日本公衛誌, 50(5). 400-413. 2003.
- 7) 川上憲人. こころの健康についての疫学調査に関する研究. 平成18年度厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)総括研究報告書、2007.

Incidence of Disease in the Reinan Region, Fukui Prefecture Based on a Patient Survey by Ministry of Health, Labour and Welfare

SUZUKI Takafumi ^{1) 2)}, NOZAWA Kazuya ¹⁾, KITA Yoshikuni ^{1) 2)}, KATANO Yoshiko ^{1) 2)}

1) Tsuruga Nursing University

2) Tsuruga Nursing University, Research Center of Home and Community Care

Abstract

Purpose: We examined incidence of disease in the Reinan Region, Fukui Prefecture utilizing a survey of inpatients by disease from Patient survey 2011.

Method: We obtained information on the actual and estimated number of inpatients in Fukui Prefecture by disease, gender, age, and medical district through secondary use of questionnaire information under Article 33 of the Statistics Act.

Results: According to the estimated number of patients, Reinan medical district had the largest number of patients with “infectious disease and parasitosis,” “digestive disease,” and “renal, urinary, and genital disease” among four medical districts. Patients in the region revealed characteristics by age and gender. The incidence of “respiratory disease” in patients under 20 years of age was also higher in Reinan medical district compared with other medical districts in Fukui Prefecture. The percentage of patients between 20 and 65 years of age suffering from “mental and behavioral disorders” was significantly high in both males and females, which is common in all medical districts in Fukui Prefecture.

Conclusion: Disease varies by gender and age in Reinan medical district. It is necessary to analyze medical statistics other than mortality through patient surveys to clarify the incidence of disease and estimate medical demand according to the actual state of each region. We must analyze more detailed information, including outpatients.

Keywords: Patients survey, hospitalized patients, disease structure, Reinan region in Fukui Prefecture